



安全衛生

あれこれ

4

増田労働衛生コンサルタント事務所

所長 増田稔久

今年も全国産業安全衛生大会が10月23日から3日間、わたって京都で開催されます。そのプログラムを見ながら、今回は何を勉強しようかと興味は尽きません。

気になる分科会の講演や発表を3つに絞って紹介しましょう。まずは「協調安全 (Safety 2・0)」を提唱している向殿教授 (明治大学) の講演です。協調安全とは聞き慣れない言葉ですが、以前に聞いた講演から推測するに、先生は新しい時代の安全管理として、モノ・環境・人をICT等の技術を使っ

て、相互に協調させる取り組みの重要性を語られ

全国産業安全衛生大会と 緑十字展へのお誘い

ると思います。ここでの協調とは、それぞれの足らないところを補い発展させるという意味でしょう。また、ゼロ災運動の欧州版「VZ (Vision Zero)」のお話も伺えるのかと期待しています。二つ目は、「フルハーネスを巡る動向」をメーカーである藤井電工(株)の技術者が現場目線で解説

されます。万一の場合、その高さによっては地上に激突しかねない懸念を有するハーネスの本音話を聞くことが出来たらと思います。

三つ目は、「ロックアウトシステム導入のポイント」で、トヨタ自動車(株)の田畑氏が(一社)日本自動車工業会の研究会委員のお立場で発表されます。今も全国で第三者

が必要と考えられ、調査研究された発表内容は、大変に興味深いお話になると予想しています。

さて、昨年の横浜大会においては、大会と併催された緑十字展を1日かけて見て回りました。展示会は広大なホール内に、各社が誇る最新の安全衛生機器や保護具が多数並びました。安全衛生の担

当者としては、最新情報の収集と勉強に最適な機会です。私自身もフルハーネスを実際に着装し、ぶら下がりが体験もやってみました。更に各ブースの開発担当者から専門的な技術から法令まで伺うことが出来ました。それらの知識を日ごろの安全衛生業務に活用しています。色々なセミナーや展示会等を訪ねることは楽しいことです。京都の大会にご一緒しませんか？新しい発見が待っています。

起動による動力機械の挟まれ災害が多数発生しています。その防止対策として、法令上は労働安全衛生規則107条2項(起動装置に錠か表示板等の措置)により、「スイッチ入れるな」の表示板のみでの対応が許されています。しかし、安全配慮義務の履行には、錠を掛けるより確実なロックアウトシステムの導入

